

〈預言者ヨナのしるしが、与えられている。〉
主イエスは、ご自身のことを指さすようにして
そう言われたのです。あのヨナのように、この
私も三日三晩、地の中にいるであろう。主イエ
スはそう言って、やがて起こる十字架での死と
復活についてお語りになりました。今、この主
イエスに出会い、悔い改めて神に立ち返り、主
イエスによって神の大きな憐れみを受けたら良
い、と私たちを招いて下さるのです。

この日、律法学者やパリサイ人のうちのある
人々は、主イエスにしるしを求めました。病人
がいやされ、大勢の人が満腹してもなお、主イ
エスを約束の救い主、メシヤだと認めることが
できなかったからです。具体的な奇跡、客観的
な証拠を手にいれたら、そうしたら主イエスの
ことを認めざるを得ないだろう。そのしるしを
見せて欲しいと言い出したのです。

さてこの日、しるしを求める人々に向かって、
主イエスは旧約聖書の預言者ヨナの話なさい
ました。預言者の中でも、特別な、とても不思
議な物語に登場する人物です。後で、どうぞ旧
約聖書のヨナ書全体をお読みになって下さい。

ヨナは、神さまの声を聞いて人々に伝える預
言者でした。しかしヨナは、神さまの命令に逆
らって逃げ出してしまいました。ヨナは、神さ
まの言葉に反抗しました。神さまが命令された、
つまり神さまが望まれた方向とは正反対の方向
へ向かって、一目散に下って行きました。どん
どん下って行って、そして一番最後には、海の
底まで下って、そこで大きな魚の腹の中へ入れ
られました。そして三日三晩、この魚の腹の中
にいた後、悔い改めの詩を歌い始めました。お
そらく真っ暗であつたらう魚の腹の中で、祈り
の言葉を口にしました。

これまで神に背を向けていた者が、方向転換
をして向きを変え、神に向かって歩き出すこと
を〈悔い改め〉と呼びます。ヨナ書は、神が、
悔い改めて立ち返る者を憐れんで、赦して下さ
るお方であることのしるしです。ヨナは、暗闇
の底で神の救いについて預言し、神を讃美しま
した。神のひとり子、主イエス・キリストは一
番絶望が深い所、一番神さまから遠いように思
われる陰府(よみ)にまで下られました。そこで、
私たちのために、神の赦しを実現して下さった
のです。

神は、最も大きな犠牲を払ってまで、私たち
が悔い改め、神の元に帰ることが出来るように
道を備えて下さいました。私たちには理解でき
ない仕方で、私たちが受けるはずの裁きと滅び
を思い返して、赦しの中へと招いて下さったの
です。

ヨナと共に、南の女王の話がでてきます。列
王記などに出て来るシバの女王のことです。神
の知恵を聞きたいとわざわざソロモン王を尋ね
てきた女王がいました。この女王や、悔い改め
た二ネベの人々は、確かにまことの神を信じる
信仰を与えられた人々でした。神がどれほど憐
れみ深く、愛に満ちた方であるかを彼らは知っ
ていました。私たちが神無しに生き、滅び去っ
ていくことを、神はお赦しにならないことを、
聖書は証ししています。

世界をお創りになり、全てを支配しておられ
る神が、この私を「惜しい」と言って下さいま
す。迷い出た小羊を捜し出す羊飼いのように、
家を出て放蕩に身を持ち崩した息子を、毎日毎
日待ちわびる父親のように、神は、私たちを憐
れんで下さるのです。聖書は、まことの神さま
が、人間を惜しいと思ってお下さるお方だ、と伝
えています。

神は、惜しむ神です。御子イエス・キリスト
と引き替えにしても良い、とお考えになったほ
どです。主イエスを、十字架に架けて、与え尽
くしてしまわれるほど、そこまで徹底して私た
ちを惜しんで下さいました。私たちを赦し、私
たちが新しく生き始めるためです。本当の救い
主を心にお迎えしたら良いのです。「汚れた霊」
が空っぽの心に戻って来ることがないように、
主イエスの招きに応えたら良いのです。

あの二ネベが味わった赦し、神の愛が、今、
ここで、私たちの前に差し込まれています。神
は、赦そうとして待っていて下さいました。私
たち一人一人の罪を赦し、新しい命に生き始め
るようにと招いていて下さいます。本来与えら
れるべき滅びではなく、一方的な赦しを与えよ
うと思ひ直して下さいました。ここにこそ、私
たちの救いの根拠があります。私たちの側には
なく、神の愛、私たち一人一人を惜しいと思っ
て下さった、神さまの深い愛にこそ、私たちの
救いの全てがかかっているのです。

(記 岡村 恒)